

広島県三次市方言



【広島県の方言区画】広島県は、県内の方言の均質性が比較的高いが、方言区画をたてるなら、旧令制国に対応した東の「備後方言」と西の「安芸方言」に分けられる。神鳥（1998: 4）はこの2区画に対応する俚言形として、備後「アダレル」／安芸「ボロケル」（穀物の実が穂から落ちて散らばる）、備後「トビ」／安芸「ウツリ」（返礼の品）、備後「ボニ」／安芸「ボン」などがあるとする。

また、近世期藩領に即した方言差も認められ、備後東南部の福山藩と、安芸および備後北部の浅野藩に分けられる。神鳥（1998: 5）は、丁寧の「ございます」にあたる形として浅野藩域の老年層は「ガンス」あるいは「ガス」を使うが、福山藩域ではこれらが使われないとする（ただし、「ガンス」「ガス」は現在は浅野藩域の高年層にも用いられない）。また、浅野藩域では終助詞・間投助詞「ノー」を使うのに対し、福山藩域では「ナー」が多い。

さらに瀬戸内海の島嶼部は内陸部とは異なる特徴を示すことがある。例えば理由の接続助詞は内陸部では広く「ケー」が使われ、島嶼部に「ケン」が見られた。最近では「ケン」が広島市など内陸部でも受容されている。

【三次市方言について】三次市は広島県の北東部に位置し、市域の多くは備後に属すが、西側の一部は

安芸に含まれる。広島県方言のなかでも古い特徴を残しており、連母音 ai, ae に対応して「アカエー・アカー（赤い）」など[æ:] [a:]が現れることがある。稀に、ai, ae が「ヘーッテ（入って）」など[e:]となることもあり、また、oi, oe に対応して「オモエー」「オメー」（重い）など[o:] [e:]が、ui に対応して「フリー」（古い）など[i:]が現れることもある。また、「ドコニ イキヤ（どこに行く?）」など、疑問詞疑問文の文末が仮定形になるという特徴を持つ。終助詞「ノー」を用いる点、古くは丁寧の「ガンス」「ガス」を用いた点は、前述のとおり、浅野藩域の方言の特徴である。また、名詞述語を作るいわゆる断定の助動詞として「ジャ」に混じってしばしば「ダ」が現れるが、これは出雲方言との連続性を示す特徴と言える（室山 1981: 116）。

【表記について】前述のとおり、連母音 ai, ae が融合して[æ:], oi, oe が融合して[o:]となることがあるが、それぞれ「アエー」「カエー」…、「オエー」「コエー」…、などとする。

【調査概要】本稿の記述は、三次市で生育し、調査時も居住する高年層話者（昭和7～20年生まれ）を対象とする臨地面接調査、および、三次市向江田町（むこうえたちょう）で1979年に収録された談話資料（用例出典参照。以下、本文では「向江田資料」とする）にもとづく。用例にも、臨地調査で得たものと、談話資料からの引用を含む。談話資料の用例の分かち書きと共通語訳は私的に改める場合がある。引用元を記していない用例は、臨地調査によって得たものである。

広島県三次市方言の活用表

《動詞》

		多段一般型 書く	多段特殊型 死ぬ	一段型 見る	来る	する
終 止 類	断定非過去	カク	シヌル シヌ	ミル	クル	スル
	断定過去	カエータ	シнда	ミタ	キタ	シタ
	命令	カケー カキンサイ	シネー シニンサイ	ミー ミンサイ	コイ キンサイ	セー シンサイ
	禁止	カクナ カキンサンナ	シヌナ シニンサンナ	ミナ ミンサンナ	クナ キンサンナ	スナ シンサンナ
	意志	カコー	シノー	ミョー	コー	ショー
	推量	カコー カクジャロー	シノー シヌルジャロー シヌジャロー	ミョー ミルジャロー	コー クルジャロー	ショー スルジャロー
	否定推量・ 否定意志	カクマー	シヌマー	ミマー	クマー	スマー
接 続 類	連体非過去	カク	シヌル シヌ	ミル	クル	スル
	連体過去	カエータ	シнда	ミタ	キタ	シタ
	中止	カエーテ	シンデ	ミテ	キテ	シテ
	仮定	カキヤー	シヌリヤー	ミリヤー	クリヤー	スリヤー
派 生 類	否定	カカン	シナン	ミン	コン	セン
	とりたて否定	カキヤーセン	シニヤーセン	ミヤーセン	キヤーセン	シヤーセン
	丁寧	カキマス	シニマス	ミマス	キマス	シマス
	使役	カカス カカセル	シナス シナセル	ミサス ミサセル	コサス コサセル	サス サセル
	受身	カカレル	シナレル	ミラレル	コラレル	サレル
	可能肯定	カケル カカレル ケッコー カク ヨー カク	シナレル	ミラレル ケッコー ミル ヨー ミル	コラレル ケッコー クル ヨー クル	《デキル》 ケッコー スル ヨー スル
	可能否定	カカレン △カケン ヨー カカン	シナレン ヨー シナン	ミラレン ヨー ミン	コラレン ヨー コン	《デキン》 ヨー セン
	尊敬	カイテ (ジャ)	シンデ (ジャ)	ミテ (ジャ)	キテ (ジャ)	シテ (ジャ)
	継続	カキョール カイトル	シニョール シンドル	ミョール ミトル	キョール キトル	ショール シトル
	希望	カキタエー	シニタエー	ミタエー	キタエー	シタエー
のだ	カクン (ジャ)	シヌルン (ジャ) シヌン (ジャ)	ミルン (ジャ)	クルン (ジャ)	スルン (ジャ)	

多段型動詞の基幹音便形

語幹末子音	語例	活用形例(過去形)	作り方
k	書く kak·u	カエー-タ	k を i にする。さらに連母音の融合が起こる(「三次市方言について」参照)。「行く」ik·u は k を Q (促音) にし「イツタ」。
g	嗅ぐ kag·u 漕ぐ kog·u	カエー-ダ コエー-ダ	g を i にする。さらに連母音の融合が起こることがある(「三次市方言について」参照)。-タが-ダになる。
s	出す das·u	ダシ-タ	音便形をとらず、基幹イ段形を用いる。
t/c	勝つ kac·u	カッ-タ	t/c を Q (促音) にする。
n	死ぬ sin·u	シン-ダ	n を N (撥音) にする。-タが-ダになる。
b	飛ぶ tob·u	トン-ダ	b を N (撥音) にする。-タが-ダになる。
m	飲む nom·u	ノン-ダ	m を N (撥音) にする。-タが-ダになる。
r	切る kir·u	キッ-タ	r を Q (促音) にする。
w/ø	買う ka(w)·u 酔う jo(w)·u	コー-タ ヨー-タ	w は ø (子音なし) に。w の前の母音が a の場合は o に変える。基幹を長音化する。

《形容詞・形容名詞述語・名詞述語》

	赤い	静か(だ)	学生 [ガクセー] (だ)
終 止 類	断定非過去	アカエー	シズカ (ジャ) シズカナ
	断定過去	アカカッタ	シズカジャッタ シズカナカッタ
	推量	アカカロー アカエージャロー	シズカジャロー シズカナカロー シズカナロー
接 続 類	連体非過去	アカエー	シズカナ
	連体過去	アカカッタ	シズカジャッタ シズカナカッタ
	中止	アコーテ	シズカデ
	仮定	アカケリヤー	シズカナラ シズカジャッタラ
派 生 類	否定	アコーナエー	シズカジャーナエー シズカニヤーナエー
	なる	アコーナル	シズカニナル
	丁寧	アカエーデス	シズカデス
	のだ	アカエーン (ジャ)	シズカナン (ジャ)

1. 動詞の活用の特徴

(1) 活用型と語類の対応

規則的な活用型として基幹多段型(以下「多段型」と基幹一段型(以下「一段型」)がある。おおよそ、多段型には a 類のうち「書く」・「居る」類、一段型には b 類(「見る」・「起きる」・「開ける」類)動詞が所属する。

多段型の基幹にはア・イ・ウ・エ・オ段の 5 形、および、音便形がある。融合によってア段拗音・オ

段幼音となることもある。「カク」(書く)の場合、カカ-ン (kak·a-N)、カキ-タエー (kak·i-teR)、カク (kak·u)、カケー (kak·eR)、カコー (kak·oR)、カエー-タ (keR-ta)、カキヤー (kak·jaR)、カキョール (kak·joRru) など。また、語幹末子音には、k (カ行)、g (ガ行)、s (サ行)、t (タ行)、b (バ行)、m (マ行)、r (ラ行)、w (ワ行) がある。語例は、表「多段型動詞の基幹音便形」を参照。

多段型の特殊なものとして、語幹末が n (ナ行)

の「シヌル・シヌ」(死ぬ)と「イヌル・イヌ」(去る)がある。「書く」などを多段一般型とするのに対し、この2語を多段特殊型とする。「シヌル・シヌ」を例にすると、否定形シナ-ン(sin-a-N)、希望形シニ-タエー(sin-i-teR)、断定非過去形・連体非過去形シ-ヌ(sin-u)など、多くは多段一般型と同じ活用形となるが、断定非過去形・連体非過去形シヌ-ル(sin-u-ru)と仮定形シヌ-リャー(sin-u-rjaR)、および、前者がベースになる推量形シヌ-ル=ジャロー(sin-u-ru=zjaroR)などで、ウ段形シ-ヌ(sin-u)にラ行で始まる接辞が付く形が現れる。古典語の「ナ行変格活用」の特徴を持つと言える。

一段型には、ミ-ル(mi-ru)、オキ-ル(oki-ru)など基幹がイ段の動詞と、ネ-ル(ne-ru)、アケ-ル(ake-ru)など基幹がエ段の動詞がある。一段型の活用形のうち、多段型のr語幹動詞に対応した形は、「ミル」を例にすると、断定非過去形ミ-ル(mi-ru)、仮定形ミ-リャー(mi-rjaR)、ミ-レバ(mi-reba)、受身・可能形ミ-ラレル(mi-rareru)であり、この方言のr語幹化の進行度合いは共通語と同程度かそれ以下と言える。

不規則な活用をする動詞として、「クル」(来る)、「スル」(為る)がある。ともに一段型に近い活用をするが、「クル」は、キ-タ(k-i-ta)、ク-ル(k-u-ru)、コ-ン(k-o-N)などのように、基幹が「キ」「ク」「コ」の3段にわたる。「スル」は、サ-レル(s-a-ru)、シ-タ(s-i-ta)、ス-ル(s-u-ru)、セ-ー(s-e-R)のように、基幹が「サ」「シ」「ス」「セ」の4段にわたる。「スル」は、ショー(s-joR)のように融合によりオ段拗音となることもある。

(2)各活用形の特徴

〈断定非過去形〉

多段一般型動詞は「カク」など基幹ウ段形となる。多段特殊型動詞は「ウ段形+ル」の「シヌル」「イヌル」と、ウ段形「シヌ」「イヌ」があるが、前者のほうが優勢である。一段型動詞は「ミル」など「基幹(=語幹)+ル」、「来る」「する」は「ウ段形+ル」で「クル」「スル」となる。過去形も含めて、断定形に付く終助詞として「デ」「ゾ」「ヨ」などがある。

- ・ルスー タノムデヨー。(留守を頼むよ。)[向江田]

- ・サカナガ ヨー クイツクゾー。(魚がよく食いつくぞ。)[向江田]
- ・キンギャー エサー ヤラニャー スグ シヌル。(金魚は餌をやらないとすぐ死ぬ。)
- ・ワシヤー マイニチ テレビュー ミル。(私は毎日テレビを見る。)
- ・ハー スグ ハナコガ ココエー クル。(もうすぐ花子がかここへ来る。)
- ・イマカラ シゴトー スル。(今から仕事をする。)

〈断定過去形〉

多段型動詞は基幹音便形に、一段型動詞は基幹(=語幹)に、「来る」「する」はイ段形「キ」「シ」に、「タ」を後接する。「出す」などの多段型s語幹動詞は、古くは「ダエータ」「ダータ」などの音便形をとったが、現在は高年層も使わなくなっている。

- ・テガミュー カエータ。(手紙を書いた。)
- ・サケニ ヨータデ。(酒に酔ったよ。)
- ・キノー スグ インダヤ。(昨日はすぐに帰ったよ。)
- ・キノー シゴトー シタエ。(昨日仕事をしたよ。)

〈命令形〉

一つはぞんざいな命令形で、多段型動詞では「カケー」「シネー」などエ段長音形、一段型動詞では「ミー」など基幹長音形、「する」ではエ段長音形「セー」、「来る」では不規則な「コイ」となる。この形に付く終助詞として少なくとも「ヤ」「ヨ」がある。

- ・アンター ハー イネーヤ。(あなたはもう帰れよ。)
- ・マイニチ ニューサー {ミーヤ/ミーヨ}。(毎日ニュースを見ろよ。)
- ・ハヨー シゴトー セー。(早く仕事をしろ。)

もう一つは、形の上では尊敬命令形にあたるもので、多段型動詞・「来る」「する」のイ段形、一段型動詞の基幹に「ンサイ」を付す。こちらのほうが男女問わず、親しい聞き手に行為を要求する場合に使いやすい。この形にも終助詞「ヤ」「ヨ」が付く。

- ・ハヨー テガミュー カキンサイ。(早く手紙を書きなさい。)
- ・オフロー ワカシトルケーノー ハイリンサイヤ。(お風呂をわかしているからねえ。入

りなさいよ。) [向江田]

・コッチー キンサイヤ。(こっちに來なさいよ。)

なお、平叙文において尊敬形「～ンサル」形は一般的でない(「尊敬形」参照)。

共通語の「～てください」にあたるさらに丁寧な命令表現として、「～テツカーサイ」がある。「テ」が脱落することもある。

・ジューブンニ ノンデツカーサイヤ。(十分に飲んでくださいよ。) [向江田]

・コレオ ミツカーサイヤ。(これを見てくださいよ。)

・チョット マツカーサイヨ。(ちょっと待ってください。)

〈禁止形〉

命令形に対応して二つの形がある。ぞんざいな形は、多段型動詞と「来る」「する」では「カクナ」「シヌナ」「クナ」「スナ」などウ段形に「ナ」、一段型動詞では「ミナ」など基幹に「ナ」を付したとなる。命令形と同じく終助詞として少なくとも「ヤ」「ヨ」が付きうる。「～ナエ (一)」[næ(:)]となることがあるが、「ナ+終助詞ヨ」の融合形だと思われる。

・キシヤナゲナ ジュー カクナ。(汚い字を書くな。)

・ドガシテモ {シヌナヨ/シヌナエ}。(絶対に死ぬなよ。)

・ツマラン バングミュー ミナヤ。(つまらない番組を見るなよ。)

・サムイケー マドー アケナ。(寒いから窓を開けるな。)

・アシタワ ココエー クナ。(明日はここに來るな。)

・バカゲナ コトー {スナヤ/スナエー}。(馬鹿なことをするな。)

・シンパイスナヨ。(心配するなよ。)

[向江田] 「ナ」を付す禁止形は、共通語を含む多くの方言で「断定非過去形+ナ」となるが、この方言では、多段一般型動詞はそれに合致するものの、他の動詞では上掲の形がふつうで、「シヌルナ」「ミルナ」「クルナ」「スルナ」は「言えないこともないが、あまり使わない」と内省される。非過去断定形の末尾がルで終わる動詞でも多段型の r 語幹動詞の場合は「キルナ (切るな)」が適格で、「キナ」は不適格とされ

る。

・チョー {キルナヨ/×キナヨ}。(手を切るなよ。)

もう一つの禁止形は、形の上では尊敬禁止形にあたるもので、「カキンサンナ」など基幹に「ンサンナ」が付く。

・キシヤナゲナ ジュー カキンサンナ。(汚い字を書きなざるな。)

〈意志形〉

多段型動詞は「カコー」「シノー」などオ段長音形となる。一段型動詞は「ミョー」「ニョー (寝よう)」「オキョー (起きよう)」などオ段拗長音となる。「来る」はオ段長音「コー」、「する」はオ段拗長音「ショー」となる。一段型動詞と「する」は、基幹(「する」の場合はイ段形)に「ョー」が付いて縮約した形とも捉えられる。

・ハー シノーカー オモータエ。(もう死のうかと思ったよ。)

・ハヨー オキョー。(早く起きよう。)

・マタ ココエ ユー。(またここへ来よう。)

・イマカラ シゴト ショー。(今から仕事をしよう。)

〈推量形〉

推量形は二つあり、一つは意志形と同じ形、もう一つは「カクジャロー」など「断定非過去形+ジャロー」である。両形ともに終助詞「テ」「デ」が付きうるが、特に意志形と同形の形は単独では用いにくく、終助詞を伴う形で現れる。終助詞が意志・推量の意味の区別を助けていると思われる。

・ハナコモ ソノ バングミュー {ミョーテ/ミルジャロー (テ)} (花子もその番組を見るだろう (よ。))

・ハナコガ モースグ ココエ {コーデ/クルジャロー (デ)}。(花子がもうすぐここに來るだろう (よ。))

〈否定推量・否定意志形〉

多段型動詞と「来る」「する」では「カクマー」「シヌマー」「クマー」「スマー」などウ段形に「マー」、一段型動詞では「ミマー」など基幹に「マー」を付し、否定推量や否定意志を表す。否定推量の場合は、終助詞「テ」「デ」が付きうる。また、否定推量には「カカンジャロー」など否定形に「ジャロー」が付

く形もある。

- ・タローワ ソノ バングミュー {ミマーテ / ミンジャロー (テ)}。(太郎はその番組を見ないだろう (よ。))
- ・ワタシャー ハー ココニヤー クマー。(私は、もうここに来るまい。)

否定意志からの派生用法として、終助詞「ネ」「ヨ」を伴って聞き手に「～しないでおこうよ」と促す否定勧誘の用法がある。

- ・カクマーネ。(書かないでおこうね。)

「マー」は「まい」に対応する融合形で、この方言の連母音融合規則からは「マエー」[mæ:]も予測されるが、この接辞においては「マー」がふつうで、「マエー」にはなりにくい(神鳥 1998: 20)。

〈連体非過去形〉

連体非過去形は断定非過去形と同形で、「カク」「シヌル」「シヌ」「ミル」「クル」「スル」などとなる。多段特殊型の場合、短い「シヌ」「イヌ」の形は、断定非過去形よりも連体非過去形で用いやすいと内省する話者がある。

- ・スグ {シヌル / シヌ} イキモン。(すぐ死ぬ生き物。)
- ・ハナコガ クル ヒュー オシエテクレー。(花子が来る日を教えてくれ。)

〈連体過去形〉

連体過去形は断定非過去形と同形で「タ」を付す形である。

- ・テレビュー ミタ ヒトカラ レンラクガアッタ。(テレビを見た人から連絡があった。)

〈中止形〉

多段型動詞は基幹音便形に、一段型動詞は基幹(=語幹)に、「来る」「する」はイ段形「キ」「シ」に、「タ」を後接する。断定過去形のところでも述べたように、多段型 s 語幹動詞の音便形は現在では廃れている。

- ・ハナコガ ブンオ カエーテ タローガ ヨー カエータ。(花子が文を書いて、太郎が絵を書いた。)
- ・ゲンキュー ダーテノー。(元気を出してねえ。)
[向江田]

〈仮定形〉

多段一般型は「カキヤー」など拗音ア段長音形、

多段特殊型および「来る」「する」は「シヌリヤー」「クリヤー」「スリヤー」など「ウ段形+リヤー」、一段型は「ミリヤー」など「基幹+リヤー」となる。

- ・カイヨッタ キンギョガ シヌリヤー タローガ ナサケナガルデ。(飼っていた金魚が死ねば、太郎が悲しむよ。)
- ・ハナコガ クリヤー ミンナガ ヨロコブデ。(花子が来れば、みんな喜ぶだろう。)

〈否定形〉

多段型動詞はア段形、一段型動詞は基幹、「来る」はオ段形「コ」、「する」はエ段形「セ」に、「ン」が付く。否定形の活用を「見る」で代表させて下に示す。意志形・推量形については〈否定推量・否定意志形〉も参照。

断定非過去・連体非過去形 ミン

断定過去・連体過去形 ミナンダ、ミンカッタ、ミザッタ (古・稀)、ミンジャッタ (古・稀)

意志形 ミマー

推量形 ミマー、ミンジャロー

中止形 ミンデ、ミンコー、ミンコーニ

仮定形 ミニヤー、ミナンダラ、ミンカッタラ

- ・カサヤラナンカ イラン。(傘なんか要らない。)

- ・ウチャー キノー イッコモ テレビオ {ミナンダ / ミンカッタ / ミザッタ / ミンジャッタ}。(私は昨日テレビを全然見なかった。)

- ・タローワ テレビモ {ミンデ / ミンコーニ} シゴトー ショール。(太郎はテレビも見ないで仕事をしている。)

- ・アノコワ イッコモ ネンコー コマッタヨノー。(あの子は全然寝なくて困ったよね。)

- ・ケガー センコーニ モドンナサッター。(怪我をせずに帰りなされた。)[向江田]

- ・タマタマ ソトー {ミニヤー / ミナンダラ / ミンカッタラ} キガ ツカナンダ。(たまたま外を見なければ気が付かなかった。)

〈とりたて否定形〉

事柄の成立を強く否定する形としてよく使われる。もとは、「カキワセン」など基幹(多段型・「来る」「する」はイ段形)を助詞ワでとりたて、「する」の否定形「セン」を付けた形だが、「カキヤーセン」「ミヤーセン」など縮約して用いられる。

- ・コノグライジャー シニヤーセンヨー。(この

ぐらいで死にはしないよ。)

- ・タローワ コガーナ ツマランコター シャ
ーセン。(太郎はこんなつまらないことはし
はしない。)

向江田資料には「セン」が「ヘン」になる例もみ
られる。下は事態成立の可能性を問う疑問文の例。

- ・アメガ ヨーケ フツェキヤーヘンデスカー。
(雨がたくさん降ってきはしませんか。)[向
江田]

〈丁寧形〉

多段型動詞と「来る」「する」はイ段に、一段型動
詞は基幹に、「マス」が付く。少なくとも次の活用形
がある。「見る」で代表して示す。

- 断定非過去・連体非過去形 ミマス
- 断定過去・連体過去形 ミマシタ
- 意志形・推量形 ミマシヨー
- 中止形 ミマシテ
- 仮定形 ミマシヤー

- ・キンギヤー エサー ヤラニヤー スグ シ
ニマスケー。(金魚は餌をやらないと、すぐ
死にますから。)
- ・ワタシモ ヘジャー ヨバレマシヨーテ。
(私もそれではご馳走になりましょう。)[向
江田]
- ・ナート コレニヤー キキマシヤー ゴビ
ョーキデ タオレラレタユー コトー キ
ータンデスガ ドガニ ガンスカイノー。
(なんとお宅には聞きますれば、御病気で倒
れられたということを聞いたのですが、どの
ようでございますかねえ。)[向江田]

〈使役形〉

多段型動詞はア段形に「ス」「セル」が、一段型動
詞は基幹に「サス」「サセル」が、「来る」は「コ」
に「サス」「サセル」が、「する」は「サ」に「ス」
「セル」が付く。「ス」「サス」の付く形は多段型動
詞に、「セル」「サセル」の付く形は一段型動詞に準
じた活用をする。「ス」「サス」形のほうが優勢であ
る。

- ・ロクストップ セワモ セズニ キンギョー
シナシテシモータ。(ろくに世話をせず、金
魚を死なせてしまった。)
- ・ハナコエ ヒトリデ ニューサー ミサス。

(花子に一人でニュースを見させる。)

- ・タローニ ヒトリデ シゴトー {サス/サ
セル}。(太郎に一人で仕事をさせる。)

〈受身形〉

多段型動詞はア段形に「レル」が、一段型動詞は
基幹に「ラレル」が、「来る」は「コ」に「ラレル」
が、「する」は「サ」に「レル」が付く。一段型動詞
に準じた活用をする。

- ・イエノ ヘーニ キチャナゲナ エオ カカ
レタ。(家の塀に汚い絵を書かれた。)
- ・コケタ トコー タローニ ミラレタエー。
(転んだところを太郎に見られたよ。)

〈可能(肯定・否定)形〉

肯定形と否定形とで形が異なり、また、動作を可
能・不可能にする条件によらず汎用的に使える形と、
能力可能・心情可能に限って使える形がある。

汎用形の作りかたは次のとおり。

	肯定形	否定形
多段 一般型	①エ段+ル 「カケル」など ②ア段+レル 「カカレル」など	左①の否定形 「カケン」など 左②の否定形 「カカレン」など
多段 特殊型	ア段+レル 「シナレル」など	左の否定形 「シナレン」など
一段型	基幹+ラレル 「ミラレル」など	左の否定形 「ミラレン」など
来る	オ段+ラレル 「コラレル」	左の否定形 「コラレン」

否定形からうかがえるように、これらは一段型動
詞に準じた活用をする。多段一般型動詞は、肯定形
では①の形が②の形と同等かそれ以上に用いられや
すいのに対して、否定形では②が優勢である。「する」
にはこれらにあたる形はなく、代替動詞「デキル」
とその否定形「デキン」を用いる。汎用形では動作
の対象がガ格になるのがふつうである。「デキル」も
同様。

- ・コノ カー マダ コマイガ イタシー カ
ンジガ {カケル/カカレル}。(この子はま
だ小さいが難しい字が書ける。)
- ・コカー アカルイケー ジガ {カケル/カ
カレル}。(ここは明るいから字が書ける。)
- ・ハナカー ミチュー シットルケー ヒトリ

デ コラレル。(花子は道を知っているの、一人で来られる。)

能力・心情可能の肯定形は「ケッコー カク」など副詞「ケッコー」と断定非過去形、否定形は「ヨー カカン」など副詞「ヨー」と否定形で作られる。肯定形で「ヨー」を用いることも可能だが、「ケッコー」のほうが一般的である。否定形では「ケッコー」は不適格である。なお、多段特殊型では肯定「ケッコー」「ヨー」の形が未確認のため、表に記していない。

- ・コノ カー マダ コマイガ イタシー カンジュー ケッコー カクデヨ。 (この子はまだ小さいが難しい字が書ける。)
- ・マダ コマイケー イタシー カンジャー ヨー カカンヨ。 (まだ小さいので難しい漢字が書けないよ。)
- ・タローワ ヒトリデ ケッコー コノシゴト スル。(太郎は一人でこの仕事ができる。)

〈尊敬形〉

「カITEジャ」など「中止形+ジャ」となる。名詞述語や「のだ形」と同様に、「ジャ」を付けず中止形に直接「デ」などの終助詞が付くこともある。この尊敬形の活用を「見る」で代表させて示す。おおよそ名詞述語に準じた活用をするが、過去形などやや不規則性がある。

断定非過去 ミテ (ジャ)
 断定過去・連体過去 ミチャツタ
 推量 ミテジャロー
 連体非過去 ミテノ、ミテン
 中止 ミチャツテ
 仮定 ミテナラ、ミテンナラ
 否定 ミテジャナエー、ミテンナエー
 とりたて否定 ミチャーナエー
 丁寧 ミテデス
 継続 ミョーツテ (ジャ)、ミトツテ (ジャ)
 のだ ミテン (ジャ)

- ・センセーワ アサノ ニューサー ミテジャ。
(先生は朝のニュースをご覧になる。)
- ・ハヨー オキニャー ヤマダサンガ キテデ。
(早く起きないと山田さんが来られるよ。)
- ・ヤマダサンワ キノー イエー オッチャツ
タエー。(山田さんは昨日家におられたよ。)

- ・フリソーナケン モツテ イッチャツタホー
ガ エーデスデー。(降りそうだから(雨具を)持っていらっしやったほうがいいですよ。)[向江田]
- ・アナタガ {オツテノ/オツテン} トキニ
キマスケー。(あなたがおられる時に来ますから。)
- ・ヤマダサンワ イマ イエデ ネトツテンジ
ヤ。(山田さんは今家で寝ていらっしやるのだ。)

「カキンサル」「ミンサル」などの「ンサル」形は、話者には「とても丁寧な形」「広島市などよその地域のことば」と内省され、命令形・禁止形以外では一般的ではないようだ。ただし、向江田資料には改まった場面で例がいくつも見られる。神鳥(1998: 43)は「ンサル」形について「広島市・福山市などの都市部において命令形しか用いられていない。ところが、その他の農漁村地域では各活用形が用いられていて、高い敬意を持つものとされている」としており、向江田資料の状況と一致している。この約20年間に三次市方言が広島市方言の変化を後追いつたことになるだろうか。

- ・カサー モツテ イキンサルカ。(傘を持って行きなさるか。)[向江田]

〈継続形〉

一つは「カキョール」「ミョール」など「基幹末尾拍のオ段拗長音+ル」という形で、西日本に広く分布する「ヨル」形にあたり、動作・変化の進行の意を表す。「シヌル・シヌ(死ぬ)」など瞬間動詞に付く場合は、「～つつある」にあたる変化達成に向けた進行(いわゆる将然)を表す。この形は、多段型動詞に準じた活用をする。

もう一つは「カイトル」「ミトル」など、多段型動詞は基幹音便形に、一段型動詞は基幹に、「来る」「する」はイ段形「キ」「シ」に「トル」を付けた形である。こちらは動作・変化の進行も、結果継続も表すことができる。多段型動詞に準じた活用をする。

- ・タローガ テガミュー {カキョール/カイトル}。(太郎が手紙を書いている。; 進行)
- ・キンギョガ シニョール。(金魚が死につつある。)
- ・キンギョガ シンドル。(金魚が死んでいる。)

〈希望形〉

多段型動詞はイ段、一段型動詞は基幹、「来る」は「キ」、「する」は「シ」に「タエー」（「ター」「タイ」）が付く。形容詞型の活用をする。

- ・ワシヤー ヤキューチューケーガ ミタエー。
（私は野球中継が見たい。）

〈のだ形〉

連体非過去形に「準体助詞ン＋助動詞ジャ」を後接する。名詞述語同様に、終助詞「デ」「ヨ」は「ジャ」を介さず「ン」に直接付く。過去形「～タ」も同様に「のだ」形を作ることができる。

- ・ソージュー セニヤー。イマカラ ハナコガ
{クルンジャ/クルンデ/クルンヨ}。(掃除をしなきゃ。今から花子が {来るんだ/来るんだよ}。)

2. 形容詞・形容名詞述語・名詞述語の活用の特徴

【形容詞】

形容詞の活用の型は一つである。中止形・否定形・なる形において、語幹末母音によっては交替語幹の長音形もしくは語幹の長音形が用いられる。なる形で例示する。

語幹末母音	交替後	語例
a	o	アカエー(赤い) アコーナル
i	ju	オーキー(大きい) オーキューナル ウレシー(嬉しい) ウレシューナル
e	o	エー(良い) ヨーナル イビセー(恐ろしい) イビショーナル
u	u	ヒクイ(低い) ヒクーナル
o	o	オモイ(重い) オモーナル

共通語には語幹末母音が e の形容詞がないが、この方言には、上の表にも示したように、少なくとも「エー(良い)」「イビセー(恐ろしい)」の2語が認められる。また、共通語で語幹末が oR (オ長音) の「遠い」「多い」は、断定非過去・連体非過去形が「ト(一)イー」「オ(一)イー」となる。語幹末が i の形容詞に準じて「ト(一)ユーナル」「オ(一)ユーナル」と交替語幹をとる。

〈断定非過去形〉

断定非過去形と連体非過去形は同形で、語幹に「イ」を付ける。動詞と同じように「デ」「ヨ」「ノー」な

どの終助詞が付きうる。冒頭の「三次市方言について」に記したとおり、語幹末母音による融合が起ることがある。特に a の場合「アカエー」(赤い)などの形が伝統的、かつ、現在も高年層に保持されているので、以下、本文や調査からの例文では原則としてこの形で表記する。

- ・コノ トマター アカエーデ。(このトマトは赤いよ。)
- ・トイーノー (遠いねえ。)

〈断定過去形〉

「アカカッタ」など、語幹に動詞的な接辞「カッタ」を付す。

- ・キノー コータ トマター アカカッタ。(昨日買ったトマトは赤かった。)
- ・ドッチガ エカッタ? (どれがよかった?)

〈推量形〉

「アカカロー」など、語幹に動詞的な接辞「カロー」を付す形と、「アカエージャロー」など、断定非過去形に「ジャロー」を付す形がある。

- ・コノ トマター ナカモ {アカカロー/アカエージャロー}。(このトマトは中も赤いだろう。)

〈連体非過去形〉

連体非過去形は断定非過去形は同形で、語幹に「イ」を付ける。

- ・アカエー トマトー カウ。(赤いトマトを買う。)

〈連体過去形〉

連体過去形は断定過去形と同形で、語幹に「カッタ」を付す。

- ・キノーマデ アカカッタ トマトガノー クローナツトルデー。(昨日まで赤かった実がね、黒くなっているよ。)

〈中止形〉

「アコーテ」「オモーテ」など、交替語幹（語幹末母音が u, o の場合は語幹）の長音形に「テ」を付す。

- ・コノ カミヤー アコーテ アノ カミヤーシロイ。(この紙は赤くて、あの紙は白い。)

〈仮定形〉

語幹に「ケリヤー」を付す。

- ・モシ ハー ミガ アカケリヤー トロー。(もしも実が赤ければとろう。)

〈否定形〉

「アコーナエー」「オモーナエー」など交替語幹(語幹末母音が u, o の場合は語幹)の長音形に「ナエー」「ナー」「ナイ」を後接する。

- ・マダ ミガ アコーナエーデ。(まだ実が赤くないよ。)

「アコー」「オモー」などの部分は「ワ」「モ」などの助詞でとりたてることができる。下には「～はある」の例もあげる。

- ・アンマリ トユーモナインジャー。(あまり遠くもないのだ。)[向江田]
- ・チョット トユーワアルガ。(ちょっと遠くはあるが、)[向江田]

〈なる形〉

「アコーナル」「オモーナル」など交替語幹(語幹末母音が u, o の場合は語幹)の長音形に「ナル」を後接する。「ナエー(無い)」は「ノーナル」となるが、話者によってはこの形は使わず、連体(断定)非過去形に「ナル」を付した「ナエーナル」や、「ないようになる」にあたる「ナエーヨ(一)ンナル」を使うという人もいる。また同義の動詞補充形として「ミテル」がある。

- ・ハー スグ ミガ アコーナル。(もうすぐ実が赤くなる。)
- ・ヒトリデ ミョーリヤー イビショーナル。(一人で見てみると怖くなる。)
- ・ミズ エット スーテ オモトーナッタヨ。(水をたくさん吸って重くなったよ。)
- ・シナモノガ {ノーナル/ナエーナル/ナエーヨ(一)ンナル/ミテル}。(品物が無くなる。)

否定形の場合と同様、とりたて助詞でとりたてることができる。

- ・ヨルモ マー チョット オソーワナルシ。(夜もまあ少し遅くはなるし、)[向江田]

〈丁寧形〉

断定非過去形に「デス」を付す。

- ・コノ トマター アカエーデス。(このトマトは赤いです。)

古くは交替語幹(語幹末母音が u, o の場合は語幹)の長音形に「ガンス」「ガス」が付く形があり、向江田資料ではあいさつを中心に用例が確認できる。現

在は廃れてしまい、高年層にも用いられない。

- ・オハヨーガシタ。(おはようございました。；朝のあいさつとして)[向江田]

〈のだ形〉

連体非過去形に「ン+ジャ」を後接する。名詞述語同様に、終助詞「デ」「ヨ」は「ジャ」を介さず「ン」に直接付く。

- ・コノ トマター ナカマデ {アカエーンジャ/アカエーンデ}。(このトマトは中まで赤いんだ(よ。))

【形容名詞述語・名詞述語】

形容名詞述語には、「シズカジャッタ」など名詞述語と同じ形と、「シズカナカッタ」など名詞述語にはない形がある。「ジャ」に代わり「ダ」が現れることもあるが、以下では「ジャ」で代表させる。

〈断定非過去形〉

形容名詞述語は「シズカジャ」など「ジャ」を後接する形と、「シズカナ」など「ナ」を後接する形がある。形容名詞に終助詞が直接後接することもある。名詞述語には「ガクセージャ」など「ジャ」を後接する形と、名詞に終助詞が直接後接する形がある。終助詞「デ」「ヨ」は、形容名詞・名詞に直接付くか、「形容名詞+ナ」に付き、「ジャ」の後に付くことはない。

- ・コノ ヘヤー {シズカナ/シズカジャ/シズカナデ/シズカデ/×シズカジャデ}。(この部屋は静かだ(よ。))
- ・イヤ、マダ {ガクセーデ/×ガクセージャデ}。(あの子はもう社会人かと聞かれて)いや、まだ学生だよ。)
- ・オモイダシタイ。アリヤー ガッコーノ センセージャ。(思い出したよ。あの人は学校の先生だ。)

〈断定過去形〉

形容名詞には、「～ナ」にさらに「カッタ」を後接した形と、「ジャッタ」を後接した形がある。前者のほうが優勢である。名詞は「ジャッタ」を後接した形を使う。

- ・アノヘヤー {シズカナカッタ/シズカジャッタ}デ。(あの部屋は静かだったよ。)
- ・キョネンマデ ガクセージャッタヨ。アノコ

ワ。(去年まで学生だったよ。あの子は。)

〈推量形〉

形容名詞には、「～ナ」にさらに「カロー」を後接した形と、「ジャロー」を後接した形がある。前者のほうが優勢である。「ナロー」を後接した形も劣勢だが用いられる。名詞は「ジャロー」を後接した形を使う。

- ・ムコーワ モット {シズカナカロー／シズカジャロー／シズカナロー} デ。(向こうはもっと静かだろうよ。)
- ・アノコワ チューガクセージャロー オモーデ。(あの子は中学生だろうと思うよ。)

〈中止形〉

形容名詞・名詞に「デ」を後接する。

- ・アッチノ ヘヤガ シズカデ エーヨ。(あっちの部屋が静かがいいよ。)
- ・タローワ ガクセーデ ハナカー カイシャインジャ。(太郎は学生で、花子は会社員だ。)

〈連体非過去形〉

形容名詞では「ナ」を付した形が使われる。名詞には助詞「ノ」を用いる。

- ・シズカナ ヘヤエ オル。(静かな部屋にいる。)
- ・イマモ ガクセーノ コガ オル。(今も学生の子がいる。)

〈連体過去形〉

連体過去形は断定過去形は同形で、形容名詞には「ナカッタ」「ジャッタ」を後接した形がある。名詞は「ジャッタ」を後接した形を使う。

- ・イマン サッキマデ {シズカナカッタ／シズカジャッタ} ヘヤガ ウルソーナッタ。(さっきまで静かだった部屋が、うるさくなった。)
- ・キョネンマデ ガクセージャッタ コモ エット オルデ。(去年まで学生だった子もたくさんいるよ。)

〈仮定形〉

形容名詞・名詞に「ナラ」「ジャッタラ」を後接する。

- ・マーリガ モチート {シズカナラ／シズカジャッタラ} ネラリーオーテ。(周りももっと静かなら、眠れるだろうよ。)
- ・タローガ {ガクセーナラ／ガクセージャッタラ}

タラ} コノ シゴター タノマレン。(太郎が学生なら、この仕事は頼めない。)

〈否定形〉

形容名詞では「に+は」「で+は」の縮約形「ニャー」「ジャー」にさらに形容詞「ナエー」「ナー」「ナイ」を後接する。「は」にあたる要素がない「ニナエー・ンナエー」「デナエー」の形も可能だと話者には内省されるが、使用は稀なようである。名詞では「ジャー」にさらに「ナエー」「ナー」「ナイ」を後接する。臨地調査では不適格とされたが、向江田資料には「名詞+ニャーナイ」の例も見られる。

- ・コノ ヘヤ アンマリ {シズカニャーナエー／シズカジャーナエー／シズカンナエー}。(この部屋はあまり静かじゃない。)
- ・ワシャー ガクセージャーナエー。(私は学生じゃない。)
- ・ソー ニワカノ コトニャーナイヨ。(そう急なことではないよ。)[向江田]

〈なる形〉

形容名詞・名詞に「ニ」、さらに「ナル」を後接する。「ニ」は「ン」になることも多い。

- ・ハースグ シズカンナル。(もうすぐ静かになる。)
- ・センモンガッコノ ガクセーナル。(専門学校の子になる。)

〈丁寧形〉

形容名詞・名詞に「デス」を後接する。

- ・コノ ヘヤー シズカデスケー。(この部屋は静かですから。)
 - ・アリヤー センセーデスガノー。(「あの人は誰？」と聞かれて) あれは先生ですがね。)
- 古くは「ガンス」「ガス」が用いられたようだが、形容詞のところでも述べたように現在は廃れている。向江田資料ではあいさつ場面を中心に例が確認できる。

- ・オシマイデガンス。(今晚は。)[向江田]
- ・オーゴトデガンシタノー。(大変でしたねえ。)[向江田]

〈のだ形〉

形容名詞・名詞に「ナ」、さらに「ン+ジャ」を付す。終助詞「デ」「ヨ」は「ジャ」を介さずに「ン」に直接付く。

- ・ケッコー シズカナンヨ。(結構静かなんだよ。)
- ・タローワ {ガクセーナンヨ/ガクセーナン
ジヤ}。(太郎は学生なんだ(よ)。)

用例出典

向江田：室山敏昭（1981）「三次市向江田町和田」広島県教育委員会（編）『広島県方言緊急調査報告書』広島県教育委員会

参考文献

神鳥武彦（1982）「広島県の方言」飯豊毅一・日野資純・佐藤亮一（編）『講座方言学 8 中国・四国地方の方言』国書刊行会

神鳥武彦（1998）『広島県のことば』明治書院

室山敏昭（1981）「三次市向江田町和田」広島県教育委員会（編）『広島県方言緊急調査報告書』広島県教育委員会

（小西いずみ）